



新型インフルエンザ等感染症脅威下における 避難所運営訓練

令和2年6月14日

湖 南 市
危機管理・防災課

出 典
「避難所開設での感染を防ぐための事前準備」：人と防災未来センター 研究員 高岡 誠子
「福祉避難所開設での感染を防ぐためのゾーニング（速報）」：人と防災未来センター 研究員 木作 尚子
「新型コロナウイルス避難生活お役たちサポートブック」：避難生活改善に関する専門委員会
「新型コロナウイルス感染症対応時の避難所レイアウト」：内閣府 防災資料
「新型コロナウイルスから皆さんの安全を守るために」：防衛省 統合幕僚監部

はじめに

新型インフルエンザ等感染症（以下、「**新型感染症**」という。）脅威下における、多重災害等発生時の避難所運営の必要性

- 新型コロナウイルスの感染（脅威）が継続
 - 出水期を迎え、風水害発生リスク増大
 - 全国各地において地震が頻発（大規模地震の発生が懸念される）
- ◎ 新型感染症脅威下における多重災害発生リスクが増大し新型感染症脅威下の避難所運営対策が急務

はじめに

新型感染症脅威下において、風水害や地震災害等発生時に、適切に避難所運営をできることが重要

本日の避難所運営訓練について

1 前 段（約30分）

「避難所開設での感染を防ぐための事前準備
チェックリスト Ver. 2」をベースに、
感染防止を考慮した避難所運営について講義

2 後 段（約2時間半）

講義に基づき、体育館を使用して、感染防止
を考慮した避難者のレイアウトを実習

※ 協定締結事業者の協力

講 義

講 義 内 容

- 1 衛生用品の調達
- 2 安全管理
- 3 合理的配慮
- 4 関係機関への事前調整
- 5 避難先の整理
- 6 避難所開設
- 7 長期の避難所生活
- 8 避難所閉鎖

避難所運営用衛生用品の調達

- 液体せっけん→手洗い
- アルコール消毒→手指消毒
- 除菌シート→清掃
- 次亜塩素酸ナトリウム液→ドアノブ、汚物の消毒
- 消毒液を入れる容器→作った消毒液用
- 赤外線体温計、電子体温計→体温測定
- ペーパータオル→多用途（清掃、消毒など）

ポイント

入手に時間を要する衛生用品に注意

避難所担当者用衛生用品の調達

- マスク（常時着用、避難者は個人で持参）
- 使い捨て手袋
- ゴーグル等（無ければ、眼鏡等で代用も考慮）
- 長袖ガウン、ビニールエプロン（レインコートでも可）
- 足踏み式（蓋付き）ごみ箱→衛生用品の廃棄用
- ごみ袋→衛生用品の廃棄用

ポイント

担当者の感染を防ぐため、個人任せにしないこと

1 衛生用品の調達

参 考

市で新規調達中の備蓄品

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 液体石鹼（手洗い用） | <input type="checkbox"/> 使い捨て手袋 |
| <input type="checkbox"/> アルコール消毒液 | <input type="checkbox"/> 防護服、手袋、ゴーグルセット |
| <input type="checkbox"/> スプレーボトル（消毒液用） | <input type="checkbox"/> 足踏み式（蓋付き）ごみ箱 |
| <input type="checkbox"/> 除菌シート | <input type="checkbox"/> ごみ袋（90L、45L） |
| <input type="checkbox"/> 非接触式体温計 | <input type="checkbox"/> 養生テープ、カッターナイフ |
| <input type="checkbox"/> マスク | <input type="checkbox"/> アクリル板防護壁（受付窓口） |

対象：市内指定避難所全53ヶ所

参考：新型コロナウイルスの消毒等に有効とされるもの

区分	手指	食品	物（食器、ドアノブなど）
アルコール消毒液 （濃度70%以上）	有効	一部のアルコールのみ有効 （食品用）	有効
界面活性剤 （食器・手洗い用洗剤）	有効	有効 （食品用）	有効
次亜塩素酸ナトリウム	人体に悪影響	人体に悪影響	有効
加熱 80℃以上で煮沸消毒	不可能	有効	有効
次亜塩素酸水	ノロウイルスやインフルエンザには有効 現時点（令和2年5月29日）で有効性は確認されていない 手指への使用や室内に噴霧することは、安全性の確認がされていない（N/G）		
遠紫外線（C波）	人体に影響がなく、ウイルス等に有効ということで研究・検証中（一部実用段階） （紫外線C波は、皮膚がんや白内障を引き起こすといわれているのでN/G）		

界面活性剤の新型コロナウイルスに対する有効成分

- 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム（0.1%以上）
- アルキルグリコシド（0.1%以上）
- アルキルアミンオキシド（0.05%以上）
- 塩化ベンザルコニウム（0.05%以上）
- 塩化ベンゼトニウム（0.05%以上）
- 塩化ジアルキルジメチルアンモニウム（0.01%以上）
- ポリオキシエチレンアルキルエーテル（0.2%以上）

避難所担当者への説明

- 感染予防策・衛生用品
- 手袋・マスクの装着方法
- 手袋・マスクの脱衣方法 **【特に重要】** ※
- 脱衣・接触リスクの説明

※別添：防衛省統合幕僚監部資料

「新型コロナウイルスから皆さんの安全を守るために」

ポイント

自身や市民を守るため、保健師等から事前に指導を受ける。

避難所担当者の体調管理

- 職員の体調管理方法・対応のルール作成
- 業務従事後のルールの作成

一例：日時、症状等

発熱（体温）、せきの有無、倦怠感、息苦しさ
味覚障がい、嗅覚障がいの有無等

ポイント

職員の心身の健康に配慮した勤務体制

配慮が必要な方への対応の準備

- 人権に配慮した啓発ポスターの掲示
- 情報保障の手段を取り揃える（情報発信・提供）
- 多様な配慮を行うための資源の確保
（人、介助用品、衛生用品等→市と調整）
- 外国語（通訳）対応

ポイント

高齢者・障がい者・乳幼児など、多様な避難者に対して適切な配慮を行う準備

避難所施設管理者との調整

- 開設手順の確認
- 役割分担
- ゾーニング設定（施設ごと）
 - ・感染者・感染疑い者・要配慮者・一般者
- 利用ルール確認
- 開放する部屋の優先順位
- 閉鎖時の施設消毒

ポイント

今までの避難所の開設とは異なることを共有

医療機関・福祉避難所施設管理者との調整

- 受け入れ可否の事前確認
- 搬送要領の事前確認
- 衛生用品の対応スタッフの調達方法
- 新たな福祉避難所の確保

※ 基本的には市と調整

ポイント

介護施設などの民間福祉避難所が現状で受入可能かを確認しサポート

自宅待機者・療養者

- 連絡担当者の確保
- 連絡先の確保
- 避難時は衛生用品を持参
- 家族と離れて避難する可能性を伝える

ポイント

市と保健所で事前に役割分担を確認

宿泊療養者（PCR検査陽性：軽症者）

- 避難に関する責任の所在
- 避難手順（指示、装備）の確認
- 避難先（誘導先）の確保

ポイント

一般の避難者と同じ扱いはできないため事前に市と責任・手順を共有しておく

一般避難者・要配慮者

- 避難することを恐れないことを周知
- 通常の携行品の周知
- 衛生用品の携行を周知（特にマスク）

※参考 避難の考え方の参考

- 避難の必要性の検討（ハザードマップ）
- 親戚、友人宅等への避難の検討

ポイント

衛生用品等を十分に準備できないことを周知

避難所運営ルール決定

- 避難先のレイアウト検討（感染防止対策：ゾーニング）
- 後で連絡がとれる避難者名簿の準備
- 手洗いなど利用ルール設定
- 掃除・消毒に関するルールの掲示
- 受付から避難スペースまでの対応
- 高齢者や妊産婦など要配慮者の対応

ポイント

避難者の協力が不可欠。地域にも事前に周知

感染脅威下の避難者の配置（基準）

- 1人あたり3m²を基準（1.5m×2.0m）
- 間隔2mを基準（個人、世帯間）（資料：1～2m）
- 壁から4.5mを基準（建物の構造による）
- 収容者数（収容率）は、50%前後になる（目安）
- 世帯毎に配置する着意（地区ごとは厳しい）
- 最初から、一般者、要配慮者等を考慮して配置を決定しておくが良い（出入口、トイレの位置、通路等を考慮）

大勢の避難者が来る前に処置。避難者の協力

参考：一人当たりの占有面積および離隔距離

○ 避難所における避難者一人当たりの必要占有面積（湖南省で採用）

- ① 発災直後の一時的避難段階で、座った状態程度の占有面積：1 m²/人
- ② 緊急対応初期の段階で、就寝可能な占有面積：2 m²/人
- ③ 避難生活が長期化し、荷物置き場を含めた占有面積：3 m²/人

○ 新型インフルエンザ等感染症脅威下における人と人との離隔距離

資料：1～2 m、出来れば2 m以上（収容者数に影響：59～43%）

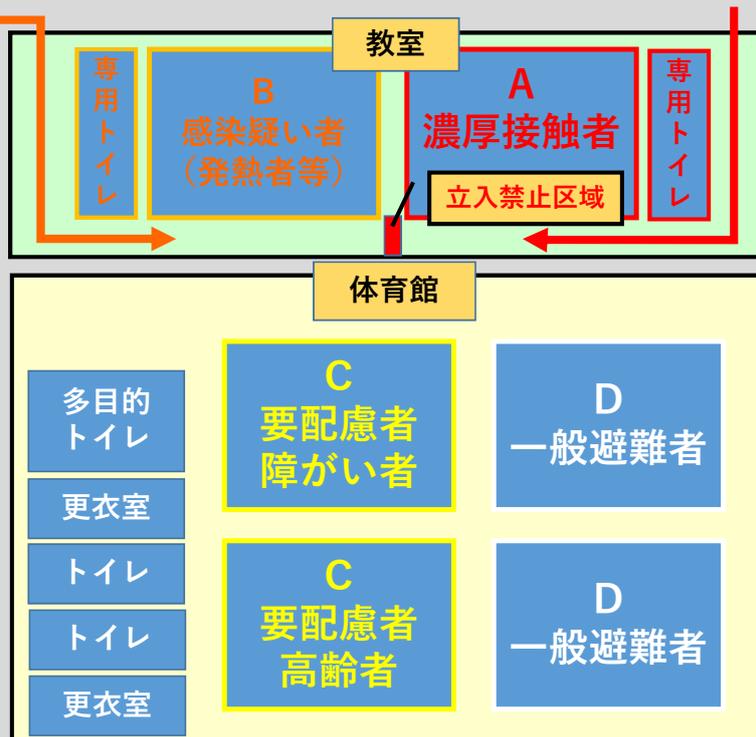
※ 研究・検証結果などを元に算定されたもので、広く認識されているもの

6 避難所の開設：全体レイアウトの検討

レイアウトの決定 (ゾーニング区分)

- A-1 感染者（努めて単独）
- A-2 濃厚接触者（別室）
(原則、病院搬送を調整)
- B 感染疑い者（有症状者）
(相談センターに相談)
- C 要配慮者
高齢者、障がい者、妊産婦
- D 一般者

受付



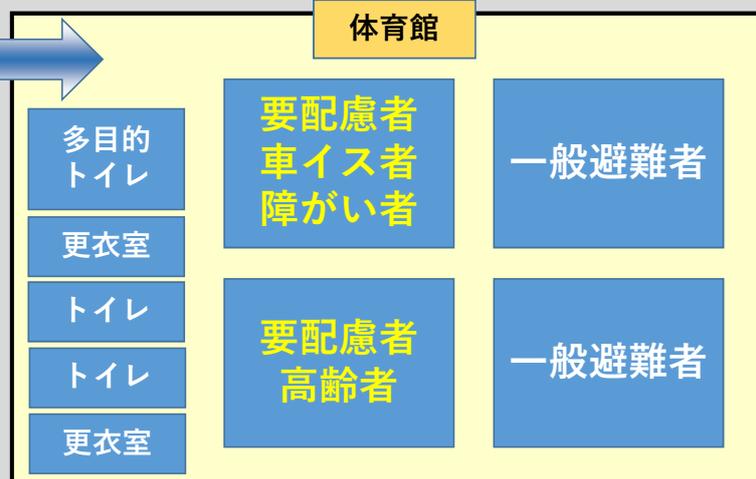
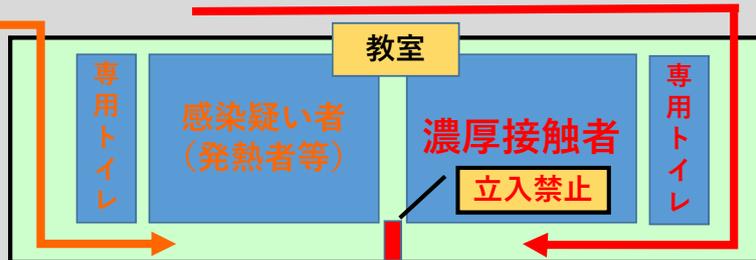
6 避難所の開設：全体レイアウトの一例

受付

- 避難者カードの記入
- 体温測定
- 発熱等症状確認
- 要配慮者等の確認
- 避難場所の決定・案内
- 総合案内（ルール等）

※ 体温計、消毒液等の配置

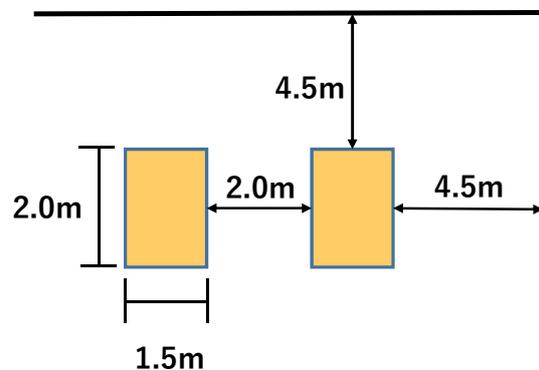
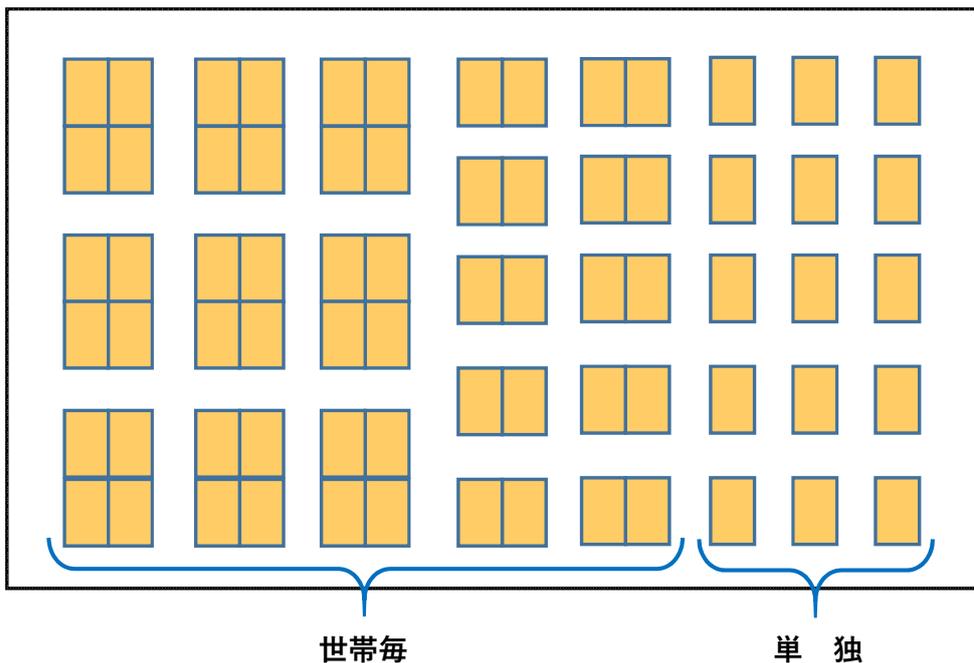
独立した動線の確保



6 避難所開設

手引書 P14

感染脅威下の避難者の配置（一例）



- 1人当たり 3㎡基準
- 間隔 2m（目安）
- 壁から 4.5m以上（目安）
- 収容率は 50%前後
- 動線を考慮（感染防止等）

体調不良者への対応

- 感染症を疑う有症状者への対応
- 隔離室の準備（教室等、専用の通路・階段・トイレ等）
- 相談担当者の設置（市と調整）
- 相談先電話番号の案内（相談センター）

※ 感染者、濃厚接触者は、原則病院へ搬送を調整

ポイント

体調不良者等が、申告しやすい環境、雰囲気を作る

環境の再整理

- 長期的な避難所レイアウトの検討
- 健康状態に合わせた避難生活スペースの検討
- 長期避難のための物資の調達（市と調整）

ポイント

避難所生活で体調を崩さないように、保健師等に相談

衛生的な環境の維持

- 手洗い場、足洗い場の設置
- 共同スペースの衛生環境
- 衛生に配慮した食料管理と配布方法
- 衛生に配慮した物資配布方法

ポイント

避難者（住民）と一緒に、衛生環境を維持するルールをつくる

資機材の調達

- ダンボールベッドとパーテーション
- ビニールシート
- 自立型テント
- 仮設トイレ（洋式）
- 冷蔵庫（食料管理）
- 扇風機やスポットクーラー（夏季）

ポイント

衛生環境と、体調不良にならないような環境を整える

ごみ対策

- 個人・世帯ごとのごみ袋
- 足踏み式（蓋付き）ごみ箱
- 自立型テント
- 感染症廃棄物として取り扱う場合のルール

ポイント

ゴミの分別、捨て方（集積場所等）のルールをつくる

保険医療体制

- 救護所設置場所の検討
- 感染症者以外の傷病者の搬送
- 保健師の巡回
- 避難所に入る様々な支援者への対応

ポイント

通常の保険医療体制とは異なることを理解し、事前に関係各所と協議しておく

避難所閉鎖時の対応

- 感染者が利用された後の対応方法
- 宿泊施設借り上げ終了時の対応

ポイント

消毒などが必要な場合があるので、施設管理者とよく話し合っておく

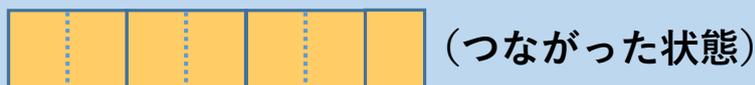
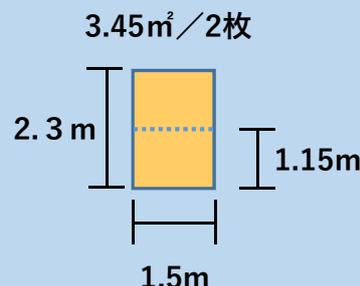
実習

感染脅威下の避難所の配置

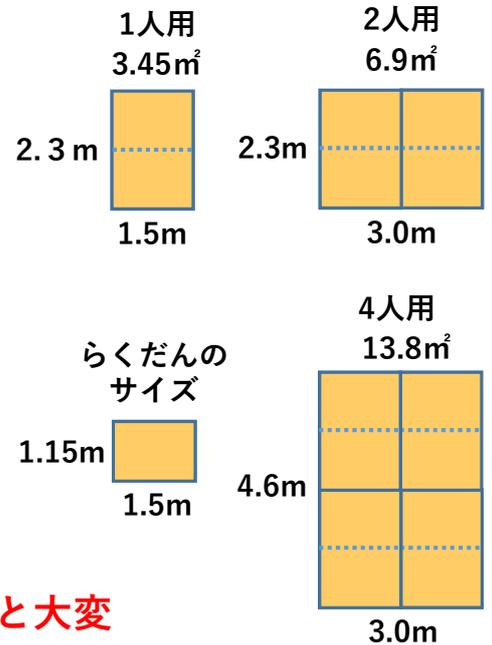
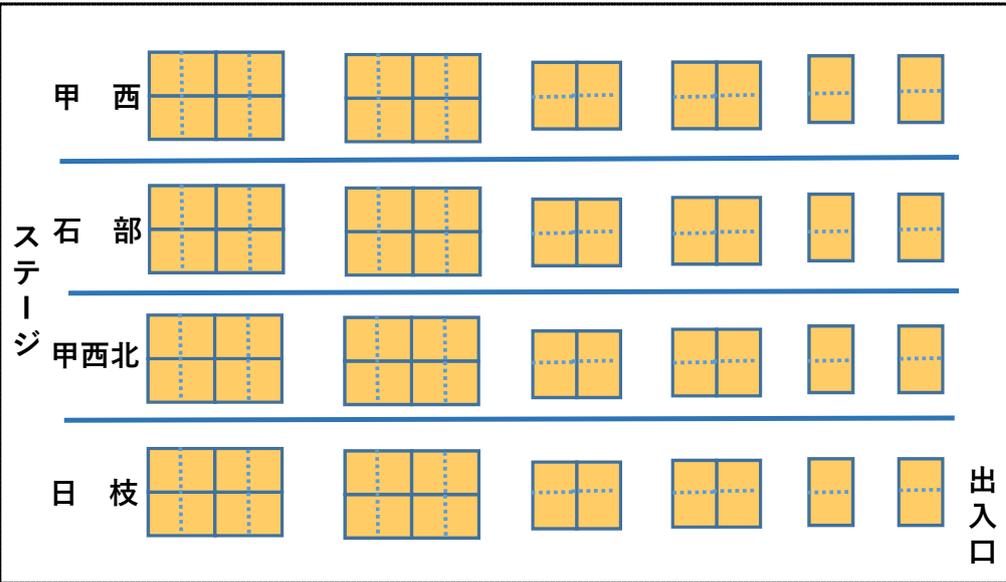
- 各中学校区ごと、4つのグループに区分
(甲西、石部、甲西北、日枝：地区連絡所は、自己が所在する地域のグループに参加)
- 各グループごと、個人用、世帯用(2人用、4人用)のスペースを2つずつ設置
 - ① 先ずは、計測してマーキング
 - ② 敷物を配置
 - ③ パーテーションを設置
 - ④ 段ボールベッドを作成・設置(各グループ1個)

ダンボールの使い方

- 協定締結事業者の資材を使用
(基本サイズ：1.15m×1.5m)
- 敷物
2枚分でカットして使用(二つ折り)
2枚分で広めの一人分のスペース(3.45m²)
間隔2mを基準に、フロアに設置
- パーテーション
個人用、2人用、4人用それぞれ、囲む分を設置
したのち、最後にカット



感染脅威下の避難所の配置

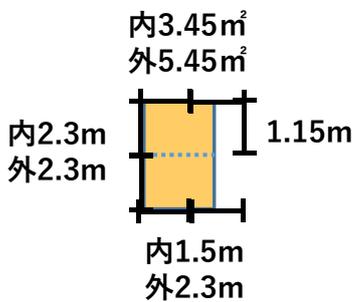


※パーティション設置時は、中途半端な位置で切ると大変

凡 例

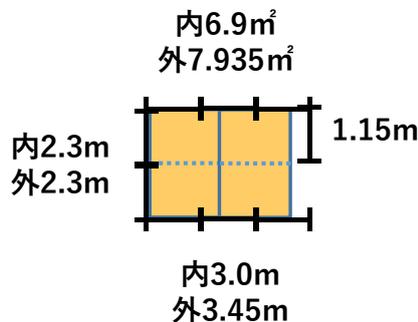
内：内側の居住スペース
外：パーティション（一辺1.15m、高さ1.5m）

1人用



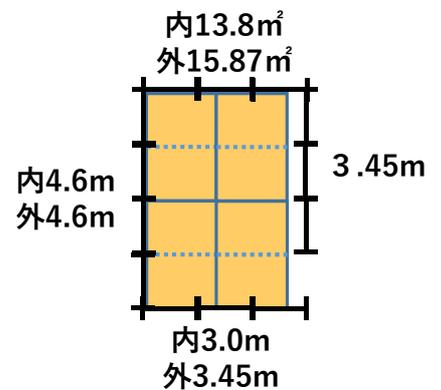
内2枚 + 外7枚 = 9枚

2人用



内4枚 + 外9枚 = 13枚

4人用



内8枚 + 外13枚 = 21枚

9枚 × 8ヶ所 = 72枚

13枚 × 8ヶ所 = 104枚

21枚 × 8ヶ所 = 168枚

総合計 72枚 + 104枚 + 168枚 = 344枚 + 展示用43枚 = 387枚